

中秋の名月

今年は9月10日（土）が中秋の名月で、十五夜です。中秋の名月は別名「芋名月」といい、里芋などの芋類の収穫を祝う行事です。また、すすきや萩を飾り、月見団子を供えて見る月もまた風情のあるものです。秋の夜長にきれいな月をゆっくりと眺めてみませんか？

仲秋の名月？ 中秋の名月？

春夏秋冬はそれぞれ3ヶ月ずつありますが、この3ヶ月を順に「初・仲（中）・晩」と呼びます。秋でみると7月、8月、9月は初秋、仲（中）秋、晩秋となります。仲は季節の中ごろ、中は真ん中をさします。仲秋は秋の半ばの1ヶ月の8月、中秋は秋の真ん中で、特に8月の真ん中の15日をさします。表記としてはどちらも間違いではないようですが・・・

中秋の名月、十五夜は満月？



十五夜＝満月というイメージがありますが、実は必ずしも満月とは限りません。十五夜とは新月の日を1日目としたときの15日目の夜の月をいいます。陰暦では月の満ち欠け周期の約半分にあたる15日が満月と考えられていました。新月から満月まで平均14.8日ですが、月の軌道が楕円のためずれることもあり、実際には少し欠けた月となります。

（実際に見るとほぼ丸（満月）に見えます）

すすきや団子を供えるのはなぜ？

すすきは月の神様を招く依り代（よりしろ）※として供えられたといわれています。また、収穫を祝ったことから派生し、稲穂に似たすすきを供えるようになった、ともいわれています。昔からすすきには魔除けの力があると信じられていました。

※依り代—神霊が依りつく対象物のこと

団子は、十五夜ではこれからの収穫を祈り、十三夜ではその年の収穫に感謝して、お米で作った団子を供えたのが月見団子の始まりといわれています。（十三夜は旧暦8月15日の十五夜の約1ヶ月後の旧暦の9月13日をいいます）



月見・観月の風習はいつから？

月見・観月の風習は中国から平安時代に遣唐使によって伝えられたといわれています。江戸時代になると一般庶民にもひろがりました。月見・観月は、直接見るだけでなく、景色とあわせて池に映して見るなど、風情のある楽しみ方が古来よりなされてきました。たとえば、桂離宮は月の鑑賞をふまえて設計された、といわれています。

イベント情報

さじアストロパークでは、宇宙ふしぎ探検「中秋の名月を見よう」と題してイベントを行います。

日時：9月10日（土） 20時～、21時～

参加費：大人（高校生以上）600円、小人（小中学生）200円（入館料・観望料として）

定員：各回20人（事前予約が必要です）

その他：雨天曇天の時はプラネタリウムで星空解説など

鳥取市さじアストロパーク
鳥取市佐治町高山1071-1
TEL0858-89-1011